

2023年3月期第3四半期決算説明Web会議 主なQ&A

- Q 第3四半期までの当初想定に対する利益面での進捗の評価を教えてください。また、電気料の上昇が単体の動力費や不動産賃貸に与える影響などについてもフォローアップをお願いしたい。
- A 上期は堅調であった。第3四半期は収入面では全国旅行支援や水際対策の緩和等もあり、鉄道運輸収入を含めて概ね想定通りに進捗しているが、費用については発生時期がずれているものもある。第4四半期に計上されるものもあるかと思うが、収入の状況を注視しながら必要なコストコントロールは行っていきたい。動力費については通期業績予想でもある程度増加を見込んでいたが、それ以上に上がってきている状況だ。
- Q ホテル事業は第3四半期で黒字になったということだが、国内・海外や、立地エリアで回復状況に違いがあれば確認させてほしい。
- A 全国旅行支援や水際対策の緩和等により、第3四半期の稼働率は74%程度、ADRは16,000円程度まで改善しており、全国の動きに沿ったものかと思う。海外からのお客さまが増えており、九州を訪れる人も増えている。内需では地方においてもイベントが徐々に再開されており、またビジネス客も動き出しており、どこのエリアにおいても第2四半期と比べて第3四半期は順調に回復した。
- Q 資料では第4四半期に鉄道運輸収入やホテルが想定より弱くなるような表現をしているが、どのように捉えればよいか。1月の速報値に関しても教えてください。
- A 全国旅行支援の駆け込み需要により12月が良く、その分もともと収入規模の少ない1月のご利用減少に繋がっている部分もあると見ており、12月と1月を合わせて収入トレンドを分析していく必要があると考えている。特に鉄道事業とホテル事業は先行きの不透明感が残るが、2月、3月については、移動シーズンを迎えるとともに、コロナの5類への引き下げという話題がある中で徐々にお客さまの動きが出てくるのではないかと考えている。
- Q 中期経営計画における未確定の成長投資900億円の一部を使って博多駅周辺の物件を取得したということだが、今後の展開をどう見ればよいか。当面賃貸収入が見込めるかとは思いますが、例えば周辺との一体開発のポテンシャルがあるとか、バリューアップの可能性があるとかが、そのような先の見通しがあれば教えてください。
- A 博多は、博多コネクティッドという福岡市の規制緩和により、天神と並んで再開発が進んでいるエリアである。取得した物件については、当面は賃貸収入を確保していくとともに、賃料アップにも取り組んでいきたい。現時点で再開発の予定はないが、博多コネクティッドの進捗に応じて、柔軟に検討していきたい。

- Q 200万円を超えるななつ星 in 九州とレクサスのツアーや、レールパスの価格改定など、高単価の商品のポテンシャルがあるように思う。単価向上に向けた取り組みをもう少し詳しく教えてほしい。
- A 12月はレールパスの販売数が2018年度比で6割程度だが、単価改定の影響により売上では8割程度まで回復している。また、ななつ星 in 九州に関しても、リニューアルを経て運行を再開し、単価を上げている。このような単価とサービスを向上させる取り組みについては今後も進めていきたい。

<ご留意事項>

※本資料は、説明会当日の質疑をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。また、本資料は、説明会当日時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、新型コロナウイルス感染症の状況、人々の価値観やライフスタイルの変化、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

以上